

Q 26

子宮内膜胚受容能検査とは どういう場合に受ける検査でしょうか

A 良い胚を繰り返し移植しても着床が成立しない反復着床不全の場合は、子宮内膜胚受容能検査(endometrial receptivity analysis:ERA)を受けることになります。その結果に基づき、個別化胚移植(personalized Embryo Transfer:pET)を行います。得られる胚の数が限られている場合にもpETが行われます。

着床の窓

ERAとは、子宮内膜の細胞を採取し、細胞の遺伝子によって着床しやすい時期「着床の窓」を調べるための検査です。患者さんごとに「着床の窓」を検出し、それに合わせて胚移植を行うことを個別化胚移植、pETと言います。

反復着床不全の原因は、胚の着床を制御する子宮内膜の異常といわれています。子宮内膜には胚着床を正常に受け入れる「着床の窓」と呼ばれる時期があり、この時期には正常に着床が成立します。しかし、それ以外の期間では正常な着床が起こることはないと言われています。着床の窓となる時期は排卵後の分泌期中期で月経周期の19～22日目頃とされていますが、個人によってタイミングが異なると考えられています。子宮内膜胚受容能検査により、個々の患者さんの着床の窓のタイミングを知って妊娠率向上を図ります。

検証が必要とされるpET

反復着床不全の患者さんにおいて、子宮内膜胚受容能検査により「着床の窓」のずれが約26%(85人中22人)に認められたという研究結果があります。そして、反復着床不全ではない不妊治療患者さんに対し、pETを行うことで妊娠率・出生率が改善したという報告があります。そのため、反復着床不全の患者さんや、反復着床不全ではないが採卵数・胚数が限られている患者さんの場合は、ERAの検査結果に基づいたpETを考慮しても良いとされています。

しかし、個別化胚移植が本当に不妊治療を行う患者さんの妊娠率・出生率を改善させるのかはまだ明らかになっておらず、今後のさらなる研究が必要です。

【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ29：反復着床不全に子宮内膜胚受容能検査は推奨されるか？ 子宮内膜胚受容能検査は不妊治療に有効か？